

## 《発表内容》

### 1. 山形県沖地震と新型コロナウイルスの影響

令和元年の山形県沖地震は鶴岡市大山地区の酒造四蔵にも被害をもたらし、当社では酒造資料館の展示物の破損、1,000本強の酒瓶の破損、王冠の損傷や識別のつかなくなってしまった酒の在庫が生じた。

このような状況で復興に向けて被災した酒蔵を支援するキャンペーンやイベントが展開され、復興に動き出していたものの、新型コロナウイルス感染症が拡大し、東京オリンピックなど多くのイベントが中止や延期となったことで、日本のみならず世界的に日本酒の消費が落ち込んでおり、歯止めがかからない状況が続いている。山形県においても、県内の酒蔵とワイナリーが一同に集まる県内初のイベントであり、令和2年3月に開催される予定だった「日本一美酒県山形フェア」にも期待をしていたが、残念ながら中止となった。

### 2. 会社の取組と実施事業

山形県沖地震で、日本酒造りに欠かせない麴を製造する麴室の脆弱さが判明した。このままでは麴室内の室温の管理と火災防止の徹底が出来ないことに加え、もし麴室の壁に亀裂が生じた場合、有害菌が発生することにより麴製造への悪影響を及ぼすことが懸念された。

当社では、被災した酒造設備の更新と新規設備を導入し、災害に強い工場の構築と共に働き方改革に根差した働くものにとって優しい企業を目指すために、地震で被災した事業者を県が支援する「令和元年度山形県中小企業スーパーサポート補助金(被災事業者支援事業)」に応募し、採択された。

補助金を活用し、導入したものは合わせて3つある。

災害に強い工場の構築と品質の向上のために、「電熱式パネルヒーター」と「オゾンクリーナー」を導入した。ヒーターは、酒造りの心臓部である麴室の火災防止に役立ち、オゾンクリーナーは麴室内に発生する有害菌の棲息防止に役に立っている。

また、働き方改革に根差した優しい企業を目指すために「電動トrolley・チェーンブロッカー式」を導入。こちらは、重労働である蒸米の移動のために導入し、辛い作業の軽減に寄与し、空いた作業時間を品質の向上に繋がる日々の清掃により時間を割けるようになった。

### 3. 今後の課題

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、酒造会社として出来ることとして、消毒用エタノールの製造を開始した。また、酒造部門でもこれを発展した形でクラフトウォッカの製造、さらに発展させてクラフトジンの製造も考えている。

質の良い酒のためにももちろん衛生管理も徹底し、働き方改革への対応も引き続き行っていく。人材不足に対応するために人材を確保することと、労働災害を防止するためにも機械化を進めていく方針である。

